

国語科学習指導案

日 時 平成22年10月28日(木) 5校時
場 所 3年2組教室
学 級 3年2組(男子18名 女子17名 計35名)
指導者 教諭 大森啓睦

- 1 単元名 5 論理の展開 ～文章の論理的構成をとらえ、自分の意見を深める。～
教材名 『生き物として生きる』 中村桂子 (光村図書3年)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、「文章の論理的構成をとらえ、自分の意見を深める。」ことを目標としている。第1学年の第五単元「真実を語る」における「調べたことを正確に伝えよう～レポートにまとめる～」第2学年の第五単元「事実と意見」における「根拠を明らかにして書こう～意見を伝える～」に連なる本単元は、「書くこと」と対を成す単元である。説明文を読み解く技能を身につけるとともに、根拠を明らかにし、構成などを工夫することによって「説得力のある文章を書くこと」でまとめられている。

本教材は、筆者が「機械」「生き物」から「人間」へと考察を進めていき、「作る」という考え方を「生き物」や「人間」に適用することには危険があるという問題を、根拠や現実性を明らかにして論じている。根拠や理由に着目し、その効果に気づかせ「説得力のある文章を書く」次教材へとつながる力を養いたい。

(2) 生徒について

明るく社交的な男子と、学習に対して幾分消極的で、内向的な女子である。平成22年度全国学力・学習状況調査における質問において、①国語の勉強は好きですか。という質問に対して70%以上の生徒が「好きである」と解答している。また、②国語の勉強は大切だと思いますか。という質問に対しても90%以上の生徒が「大切である」と解答している。しかし反面、③国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけていますか。などの質問に対しては、「あてはまる」と解答する生徒が半分以下になってしまう。

授業時の発言などで「単語」で答えてしまう傾向の強い生徒達に「説得力のある意見には、明確な根拠が必要である」ことを気づかせたい。

(3) 指導にあたって

本時は、お互いに相手の言葉を、確実に聞き取らなければならない状況を作るための手段として、また、人数制限のある場面緘黙の生徒を考慮し、ペアトークを活用した授業の展開を行う。国語科として「確かな学力」は「語彙力」と位置付け、その上に「表現力」が養われるものであると考える。その「確かな学力」を身につけるために、まずは「個」で考え、「小集団(ペア)」さらには「全体」で「言葉(語彙)」の交流を行い、最後に「個」に返し「表現力」を高めるという学習形態をとる。最終的には、筆者の考えを根拠も含めて読み取り、自分の意見の深化につなげたい。

3 単元の目標

- (1) 筆者の主張を読み取り、人間と科学技術のあり方について考えようとする。

【関心・意欲・態度】

- (2) 筆者の論理展開を的確にとらえ、筆者の主張の根拠を読み取ることができる。

【読む】

- (3) 筆者の考えをもとに、人間が生きることと科学技術に関しての考えを深め、自分の意見を持つことができる。

【読む】

- (4) 類義語や対義語、抽象的な概念などを表す語句についての理解を深めさせる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- (5) 主張のまとめ方を確かめながら、例文を読ませる。

【関心・意欲・態度】

- (6) テーマを見つけ、提案を明らかにさせる。

【書く】

- (7) 主張の根拠を明らかにし、文章の構成を考えさせる。

【書く】

- (8) 主張を客観的に見直し、論理の展開や構成を工夫して意見文を書かせる。

【書く】

- (9) 段落の役割や接続の関係に注意させる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導計画

(5 論理の展開 ～文章の論理的展開をとらえ、自分の意見を深める～：5時間扱い 本時 4/5)

	時数	学習内容	評価規準			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
			関心・意欲・態度	書く	読む	
生き物として生きる	1	・構成がバラバラになった本文を正しく並べ直す。	構成がバラバラになった本文を正しく並べ直そうとしている。		正しく並べ直すために本文を読み取ろうとしている。	
	2	・正しい構成の本文を読み、感想を述べ合い、内容について話し合う。	本文を読み、感想を述べ合い、内容について話し合おうとしている。		感想や内容について話し合うために本文を読み取ろうとしている。	
	3	・筆者の主張が分かりやすいのはなぜかを考える。①	筆者の主張が分かりやすいのはなぜかを考えようとしている。		筆者の主張を「根拠」に着目してとらえようとしている。	
	4	・筆者の主張が分かりやすいのはなぜかを考える。② (本時)	筆者の主張が分かりやすいのはなぜかを考えようとしている。		筆者の主張を「構成」に着目してとらえようとしている。	
	5	・筆者の主張に対し1つの立場から根拠を明確にし意見を述べる。	筆者の主張に対して、根拠を明らかにして意見を述べようとしている。		筆者の主張を読み取り、自分の意見を述べるにあたり、発表メモを書こうとしている。	
説得力のある文章を書こう	1	・主張のまとめ方を確かめながら例文を読む。	学習の目標と見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。	例文の「主張」「根拠」「提案」をとらえ、書き取ろうとしている。		
	2	・テーマ例を手がかりにして主張する事柄を決める。	意見文のテーマとして取り上げたい課題を挙げようとしている。	テーマに対する「主張」を明確に述べようとしている。		
	3	・自分の主張について説得力のある根拠と具体的提案を用意する。	自分の主張に対する根拠を集め、提案を考えようとしている。	自分の主張に対する、「根拠」「提案」を整理し、書き出そうとしている。		
	4	・提案内容と根拠を班で発表し合い客観的に見直す。	相手の提案内容と根拠を客観的に見直そうとしている。	相手の提案内容や根拠を書き取ろうとしている。		
	5	・構成を工夫して意見文を書く。	構成を工夫して意見文を書こうとしている。	「主張」「根拠」「提案」を明確にし意見文を書こうとしている。		

5 本時の指導について

- (1) 目標・筆者の主張を根拠も含めてとらえている。 【読む】
・ペアで意見を交流することができる。 【読む】

(2) 具体の評価規準

観点	A 十分満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
読む	筆者の主張を、「構成」に着目してとらえ、「分かりやすい主張とはどういうものか」まで考えている。	「構成」に着目するためのヒントカードを用意する。

(3) 指導の構想

本単元では、特にも説得力のある意見・文章には、より明確な根拠が必要であるということを感じさせ定着させたいと考える。全体または班単位では、なかなか一人ひとりが気づくまでには至らないと考える、より個人がそれぞれ、このことに気づき、相手の言葉を確実に聞き取らなければならない状況を作るための手段として、ペアトークを用いるものである。

また、本学級には、人数制限がある場面緘黙の生徒が在籍している。学級に在籍している全員が受容感・有能感を持つための手段としてもペアトークを位置付けている。

国語科では「確かな学力」を「語彙力」と位置付けている。「豊富な語彙力」のもとで「表現力」が養われるものであると考え、生徒一人ひとりが互いに関わり合う活動を取り入れているものである。

(4) 展開

段階	学習活動 《学習形態》	教師の働きかけ	○指導上の留意点 ●評価の方法・観点
導入 5分	1 あいさつ	1 あいさつ	○大きな声であること
	2 前時の学習内容の確認	2 学習内容を確認させる	
	3 学習課題の設定	3 学習課題を確認しワークシートに記入させる	●【関心・意欲・態度】 ワークシート
筆者の主張が分かりやすい理由をもう一つ見つけよう			
展開 40分	4 前時までの学習内容を想起しながら、なぜ筆者の主張が分かりやすいのかをさらに考える。《個》	4 「構成」に着目して考えさせる。	○「構成」に着目して考える ということを助言する。 ●【読む】ワークシート
	5 お互いの考えを交流する。《ペア》	5 それぞれ相手の意見をしっかりと聞き、理解した上で意見を交流し合わせる。	○相手の考えを十分理解した上で話を進めるように助言する。 机間巡視、ワークシート
	6 学級全体で交流する。《全体》	6 相手の意見を根拠まで聞き取り、メモをとらせる。	○メモをとることで、最終的にまとめやすくなるということを助言する。 ●【関心・意欲・態度】 ワークシート
	7 なぜ筆者の主張が分かりやすいのかをまとめる。《個》	7 交流した意見を参考にしながら、最終的な自分の意見をまとめさせる。	○さまざまな意見を参考にし てまとめるよう助言する。
終結 5分	8 本時の振り返り 「人間」詩の朗読を聞く。	8 本時の振り返りをさせる。 次時に向けて必要な詩であることを理解させる	
	9 次時の学習内容の確認	9 本時の学習内容をもとに、 筆者の意見に対して、根拠を明確にして意見を述べさせることを確認させる。	○本時のワークシートがまとめられていないと、次時に困ることを助言する。
	10 自己評価カードの記入	10 自己評価カードを記入させる。	●【関心・意欲・態度】 自己評価カード
	11 あいさつ	11 あいさつ	○大きな声であること